

合衆國憲法 補正附 完

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番号	第	號
憲法部		門
憲法部		部
憲法	外國憲法	項
H		次
全	冊ノ内第	冊
分	冊第	號
番	3219	

福岡第一師範學校
圖書部

139 冊ノ内
91

T1A1
23
H 48g

II 4

林正明譯述

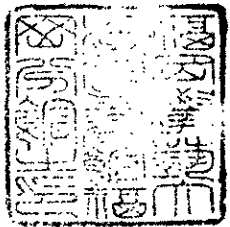
合眾國憲法

明治六年
孟春

求知堂藏版

合眾國憲法序

遠西諸邦日致富強者何也蓋其政
體大同小異而歸一之要則在立憲
法故雖無不世出之士憲法者猶能
駸乎進其國於富強之域矣非夫
漢土其人止則其政息之以也然而
至乎行政議政執法之三權則獨亞
米利加合眾國為尤備矣蓋合眾國



者新建之邦遷移之民而無泥古之
弊有日新之勢是以得秩然施憲法
於其間譬猶新構屋者經營無不如
意也向者余留學于其國尋周流諸
邦而凡其風土其人情有所目擊而
臆記焉嘗以為憲法之學不可不講
之宜以合衆國為首是余所以先
譯述此篇也嗚呼此篇雖小冊子足

以窺其一斑而憲法之學庶幾其得
門乎

明治壬申秋九月重陽日

林正明識

北亞米利加合衆國憲法

林 正明譯述

緒言

合衆國ノ人民等國中ヲシテ益共和一定セシメ
公明正大ノ法律ヲ立テ國內ノ治平ヲ保チ外寇
ニ備ヘ衆庶益安寧ナラシメ自主ノ幸ヲ我々ノ
子孫ニ固フセンコトヲ欲シテ此憲法ヲ亞米利加
合衆國ノ為ニ設立スルモノナリ

第一條

第一節

左ニ掲ケル議政ノ權ハ都テ合衆國上下二院ニ
皈ス可シ

第二節

下院ノ議員ハ二年毎ニ各州ノ人民ヨリ撰舉ス
可シ而シテ其各州ニ於テ議員ヲ撰フ者ハ各州
議政數部ノ官員ヲ撰フ可キ人ニアラサレハ其
權カヲ與フ可カラス

第三節

齡未タ二十五ニ至ラス又合衆國ノ戶籍ニ入り
未タ七年ヲ経サル者及ヒ其撰舉ニ當リシ時其

州ニ性居セサル者ハ敢テ下院ノ議員ト為ス可
カラス

第四節一

右議院ノ人員ハ租税ノ多寡ニ關スルヲ以テ合
衆國中各州人民ノ多少ニヨツテ之ヲ出スノ差
等アルヘシ而シテ各州人民ノ多少ハ「フリース
自主自由ト云フ義ニテ奴隸等ノ如ク人ニ束縛
カレサル人ニシテ其此合衆國中賣奴ノ制大ニ
威ニ及シテ云フ及ヒ十ヶ年人ニ使役セラル、
ヲ約束セシ者ヲ數フ但シ租税五令ノ三ヲ拂ハ
サル」インデイヤンス」
歐人亞米利加ヲ發見セシ前
ヨリ住ミ居シ土人ヲ云フ

ハ之ヲ除ク可シ

第四節二

各州ノ人口ハ合衆國議員初會ノ後三年ノ内ニ調フベク其後ハ臨時出ス所ノ法度ニ從ヒ十年毎ニ之ヲ定ムベシ而メ議員ノ數ハ三千人毎ニ一人ヲ出ス可シ然レモ一州ニ於テ少クモ一人ハ必ナラス欠ク可カラス

第四節三

人口確實ノ調ヲ得サル間ハ「ニウハンブシア」州ハ三人「マサチユーセツト」州ハ八人「ロードアイランド」及ヒ「プ

ロビデンスプランテーション」州ハ一人「コンチクチカツ」州ハ五人「ニウヨーク」州ハ六人「ウーシヨルジ」州ハ四人「ペンシルウエニヤ」州ハ八人「デラウエヤ」州ハ一人「イリノランド」州ハ六人「ヴァルジニヤ」州ハ六人「ハリスカロライナ」州ハ五人「シヨルジヤ」州ハ三人ヲ撰フ可シ

第五節

何州ノ議員ニ於テモ若シ欠官アル時ハ其州ノ行政官再撰ノ令ヲ下シ其員ヲ充タシム可シ

第六節

下院ノ議長ハ其議員ニテ之レヲ撰フ可ク又「
ンピーチメント」ノ特權ヲ持ツヘシ 有司竊ニ賄賂ヲ
納レ或ハ其任ヲ
適ル等ノ事アル時之 ヲ糾問スルヲ云フ

第七節一

上院ノ議員ハ各州ノ議政官ヨリ二名ヲ撰舉シ
六年ヲ以テ定限トシ議員各「ヴァイト」願ヲ述ヘルト
云フ義ニテ人
ヲ官ニ舉ケ或ハ法ヲ立ルニ 當リ其見込ヲ言フナリ 出スノ權アリ

第七節二

議員始テ會スルニ當テ先ツ其數ヲ三部ニ分チ
第一部ノ議員ハ二年第二部ノ議員ハ四年第三

部ノ議員ハ六年ニメ退キ議員三令ノ一ハ二年
毎ニ撰舉ヲ受ケ若シ議員各州ノ議政官閉院中
ニ其職ヲ辞シ或ハ他ノ故ニ因テ官ヲ欠ク時ハ
其州ノ議政官閉院ノ後其員充ル迄其行政官ヨ
リ假リニ之ヲ撰フヘシ

第七節三

齡未タ三十二至ラス且合衆國ノ戶籍ニ入り未
タ九年ヲ経サル者及ヒ其撰舉ニ當リシ時其州
ニ住居セサル者ハ敢テ上院ノ議員ト為ス可カ
ラス

第七節四

合衆國ノ副統領ハ上院ノ議長タルベシト雖モ
「ヴァー」均シク分カル、ニアラサレハ之ヲ出ス
ノ權ナシ

第七節五

議員其他ノ官吏ヲ撰フ可ク又副統領其席ヲ欠
キ或ハ合衆國大統領ニ代ル時ハ假ニ其議長ヲ
撰フ可シ

第七節六

議員都テ「インピーチメント」糾問ノ事ヲ司ル

可ク其為ニ會スル時ハ各誓ヲ為スコシ而シテ
合衆國ノ大統領其糾問ニ達フ時ハ司法總裁之
ヲ掌ル可シ総シテ其席ニ列スル議員三分ノ二
協合スルニアラサレハ何人ト雖モ之ヲ罪スヘ
カラス

第七節七

右糾問ノ裁判ハ官ヲ免シ及ヒ合衆國ノ位任職
務等ヲ廢黜スルニ過ク可ラスト雖モ罪明白ナ
ル時ハ其律ニ從ヒ之ヲ刑スルヲアリ

第八節一

上下二院ノ議員ヲ撰フノ法并ニ時處ハ各州ノ
議政官州ノ小議院ヲ指スニ依テ定ム可シト雖上院議
員撰舉ノ地ヲ除クノ外大議院州ノ議院ニヨリ
令ヲ下シテ其規則ヲ立テ或ハ之ヲ改ムヘシ

第九節二

議員ハ少クモ一年ニ一會シ其集會ハ更ニ令ヲ
下シテ日ヲ定ムルニアラサレハ常ニ十二月初
月曜日ニ始ム可シ

第十節一

二院各其議員ノ撰舉再撰并ニ其撰ニ違フベキ

規則等ヲ決定ス可ク二院ノ議員過半集會スル
ニ非レハ其事務ヲ為ス可カラス若シ其人員足
ラサル時ハ欠席ス可カラサルノ法令ヲ立テ當
ルニ罰金ヲ以テシ其員滿ルマテ日ニ延會ス可
シ

第十節二

二院各其議員ノ行跡ヲ正シ暴狀ヲ罰シ議員三
分ノ二協合スレハ其員ヲ放逐ス可シ

第十節三

二院各其施行スル所ヲ記載シ密事ヲ除クノ外

常ニ公布ス可シ又在席議員五分ノ一望ムモノ
アレハ兩院議事ノ可否ヲ其書ニ記ス可シ

第十節四

兩院ノ合議ニアラサレハ三日ノ外閉院スル能
ハス又兩院トモ會スベキ地ニ非ラサレハ妄リ
ニ其處ヲ移ス可カラズ

第十一節一

上下ノ議員其勞ニ報酬ヲ受ケ之ヲ合衆國ノ會
計局ヨリ出ス可シ而メ反ヲ謀リ人ヲ殺シ騷擾
ヲ醸シ喧嘩ヲ起ス等恣テ法度ニ背クノ罪ニア

ラサレハ會議中及ヒ其往返ニ於テ議員ヲ捕縛
スルヲ許サス又院中ノ論議敢テ院外ニテ問
フヲ得ス

第十一節二

兩院ノ議員奉職ノ間別ニ合衆國政府ノ任ヲ奉
ケ其レカ為メ報ヲ得或ハ祿ヲ増シ政府ノ列官
モ亦之ヲ兼ヌルヲ得ス

第十二節一

收税ノ議案ハ都テ下院ニ起ルト雖他ノ議按
ノ如ク上院ニテ之ヲ可ルシ或ハ之ヲ補フノ權

第十二節二

既ニ議按兩院ヲ經立テ法ト成ル前必ナラス之ヲ合衆國大統領ニ示シテ其許准ヲ稟クベシ若シ大統領是トスレハ之ニ調印シ否サレハ其非トスル所ノ議論ヲ添ヘ之ヲ起ス所ノ院ニ返シ其院ニテハ之ヲ其日誌ニ載セ再ヒ講論シ其三分ノ二尚之ヲ立ルト是トスル時ハ其非トスル所ノ議論ト共ニ之ヲ他ノ院ニ送り同ク再議シ其院モ亦之ヲ是トスル時ハ其議按終ニ立テ法

ト為ル可シ然レモ都テ此ノ如キ事件ノ時ハ兩院ノコウヲトシ可否ヲ以テ之ヲ決シ其是非スル所ノ人名亦各院日誌ニ記ス可シ而シテ大統領其議按ヲ受ケ十日ノ内日曜日ヲ除ク之ヲ返サレハ調印セシト同ク其議按終ニ立テ法ト為ル可シ但シ議會既ニ閉チ其返ルトヲ妨ケル時ハ此例ニ非ス

第十二節三

法令ヲ出シ決議或ハサイントヲ取ル等都テ上下兩院ノ協合ヲ要スベキ議會ノ除ク事件ハ必ナラ

ス之ヲ合衆國大統領ニ示ス可シ又其立法ト
為ル前ニハ須カラク大統領ノ許准ヲ稟クヘシ
或ハ大統領否サルモ定則ニ從ヒ再議ノ後兩院
三分ノ二尚之ヲ可ルサバ立法ト為ス可シ

第十三節一

議院左ノ權カヲ持ツ可シ

第一

直稅緩稅等種々ノ租稅ヲ收メ國債ヲ拂ヒ外寇
ニ備ヘ國內ノ安寧ヲ全スル事但シ右緩稅等ハ
合衆部中都テ一定ナル可シ

第二

合衆國ノ名ヲ以テ金銀ヲ借ル事

第三

外國及ヒ印度種屬ト貿易シ條約ヲ定メ之ヲ各
州ノ内ニ施ス事

第四

合衆國中外人入籍並ニ諸財分散一定ノ法ヲ立
ル事

第五

貨幣ヲ鑄其價及ヒ外國貨幣ノ價並ニ度量ヲ定

第六

合衆國証書並ニ通貨ヲ廣スルノ刑ヲ備ヘル事

第七

飛脚屋ヲ建テ其道路ヲ作ル事

第八

書籍及ヒ發明ニ暫ラク專賣ノ權ヲ與ヘ作者並ニ發明家ヲシテ利潤ヲ得セシメ大ニ文學技藝ヲ獎勵スル事

第九

大法局ノ下小法局ヲ立ル事

第十

海賊及ヒ洋中ニテ犯ス死罪並ニ万国公法ニ背ク罪ヲ判テ之ヲ刑スル事

第十一

戰ヲ宣ヘ「マルクヒ」及「レプリサ」ノ令狀及ヒ海陸ニ於テ敵ノ財品ヲ奪フ「ノ規則ヲ立ル事」或國王首領ヨリ其人民ニ令ヲ下シ敵ノ財品ヲ奪フ「ノ許シ或ハ損害ヲ償フ為メ他ノ人民ノ財品ヲ奪フ「ノ掠メ其國カラ盡ス為ニ用ユル「ト謂フ」

第十二

兵ヲ起シ之ヲ養フ事但シ其用ニ供スル財ハ二年ヲ以テ限トナス

第十三

海軍ヲ備ヘル事

第十四

海陸軍ノ法則ヲ立ル事

第十五

共和ヲ保チ反乱ヲ鎮メ外寇ヲ退クル為ニ市兵ヲ徴スル事

第十六

市兵ヲ編制シ之ヲ訓練シ及ヒ合衆國ニ用ユル其部ヲ管轄シ士官ヲ命スルノ權ヲ各州ニ存シ且議院ニテ定ル所ノ規律ニ從ヒ市兵ヲ訓練スル事

第十七

某州ヨリ讓リ且議院ノ許ニ依テ國ノ政府ト為ル可キ地方十方里ニ過ク可カラスヲ管轄シ專ラ議政ノ權ヲ行ヒ又各州議政官ノ協議ヲ以テ堡臺火藥局武庫修船所等其佗緊要ノ築造ヲ設ケン為メ

買フ所ノ地ハ都テ同様ノ權ヲ行フ可キ事

第十八

上ニ記載スル權力及ヒ此憲法ニ依テ合衆國政
府或ハ其局省若クハ官吏ニ附スル一切ノ權力
ヲ行フニ至當必要ノ法ヲ立ル事

第十四節一

現今聯合ノ各州當ニ許スヘキ人民ト思ハ、其
民ヲ他州ニ移シ或ハ之ヲ他方ニ迎ユル凡一千
八百八年迄ハ敢テ議員ヨリ之ヲ禁ス可カラス
然レ凡其迎ル人毎ニ十元ドル以下ノ税ヲ収ム可シ

第十四節二

叛乱或ハ外寇ニテ國家ノ安危存亡ニ關スルニ
非レハ敢テ「ハビヤスコルプス」人各其身ヲ保ツト云フ義ニテ罪跡立
サルニ妄リニ人ヲ捕縛スル等ノ「無ク全ノ權
ク人民ニ自由ノ權ヲ與フル」云フヲ云フ
ヲ類ム可カラス

第十四節三

「ビルラフアッテインダー」ノ法ヲ立テ逆罪或罪等ニ因
テ或刑ニ處セラレ或ハ國內ヲ逐ハレ土地田産
住屋等所有ノ品ヲ人ニ賣リ或ハ之ヲ遺ス「
權ヲ失ハシメ或ハ「エキスポストフハクトロー」ノ法ヲ

出ス可ラス罪ヲ犯セシ時之ヲ刑スルノ律無クシテ其律後ニ立ケ之ヲ刑ニ處スル

第十四節四

上ニ云フ人口確實ノ調ヲ得人民ノ多少ニ從ヒ之ヲ定ルニ非レハ敢テ分頭税ヲ収ム可ラス

第十四節五

何州ヨリ輸出スル物品ト雖モ直税或ハ緩税ヲ収ルコトナク各州ノ間公平ニ通商収税ノ法ヲ立テ聊カ偏陂ナク又某州ニ往キ某州ヨリ來ル船舶他州ニ於テ物品條目ヲ運上所ニ示シ或ハ

其運上所ニテ要スル手數ヲ為シ出帆都合ヲ付ケ又運上ヲ拂フ等ノ一莫カル可シ

第十四節六

規則ニ從テ配當スルニ非サレハ敢テ會計局ノ金銀ヲ出ス可カラス其公金ノ出納精算詳書シ常ニ之ヲ公告スベシ

第十四節七

合衆國ニ於テ一切貴爵ノ位号ヲ與ヘス又議院ノ許ヲ得サレハ其官職ヲ奉スル者妄リニ王公若クハ外國ヨリ位官祿等何等ノ賜ヲモ受ク可

カラス

第十五節一

何州ニテモ私ニ條約ヲ立テ盟約ヲ結ヒ或ハ聯合シ「マルクヒレプリサ」ノ令狀ヲ與ヘ貨幣ヲ鑄紙幣ヲ造ルヲ得ス國債ヲ拂フニハ必ナラス金銀ヲ用ユ可ク「ビルヲフアツテインダ」及ヒ「エキスポスト」フハクトロ」或ハ金銀等貸借ノ約定ヲ壞ル如キ法ヲ立テ又貴爵位号ヲ與フルヲ得ス

第十五節二

議院ノ許准ヲ稟ケサレハ港内検査ノ法ヲ行フ

ニ必要ナルモノヲ除クノ外出入ノ輸品ニ税ヲ收ム可カラス而シテ各州ニ於テ收ル出入税銀悉ク之ヲ合衆國會計局ニ收メ其法則ハ乃チ議院ニ於テ之ヲ統轄シ或ハ之ヲ改革ス可シ又議院ノ許ヲ稟ケス何州ニテモ「トン子」積荷ノ從ヒ取ル「ヤ」輕重ニ「ツ」州或ハ外國ト契約連合等ヲ為スヲ得ス又現ニ外寇ヲ受ケ或ハ猶豫ス可カラサルノ危難ニ非レハ妄ニ戰爭ヲ作ス可カラス

第二條

第一節一

行政ノ權ハ之ヲ亞米利加合衆國大統領ニ歸シ
四年間其務ヲ奉セシメ左ノ規則ニ由リ副統領
ト與ニ其撰舉ヲ受ク可シ而シテ副統領在職期
限ハ大統領ニ同シカル可シ

第一節二

議政官ノ命ニ從ヒ議院ニ出ス可キニ院議員ノ
數ニ應シテ撰士ヲ撰フ可シト雖モ合衆國ノ官
職ヲ奉スル者並ニ上下ノ議員ハ都テ其撰舉ニ
當ル可カラス

第一節三

撰士各州ニ會合シ票ヲ投シテ正副二員ヲ撰舉
シ少クモ一人ハ必ナラス他州ヨリ撰ヒ其撰舉
ヲ受ケシ者ノ姓名ヲ記シ之ニ調印立証シ其封
ヲ印シ上院ノ議長ニ當テ之ヲ合衆國政府ニ送
リ上院議長上下兩員ノ前ニ投テ封ヲ開キ其票
ヲ數ヘ其數最多キ者ヲ大統領ト為ス可シ若シ
大數ヲ獲ル者多ク其數モ亦同シキ時ハ下院直
ニ票ヲ投シテ其内ヨリ大統領ヲ擇ヒ若シ一人
モ大數ヲ獲ル者無キ時ハ其數最多キモノ五

人ヲ拔キ更ニ之ヲ選フ可シ蓋シ諸州各議員ヲ
出シ其撰ニ與ルヲ以テ各州大統領ヲ舉ル所以
ニシテ其數各州議員三分ノ二ヲ以テ足レリト
トス可シ給シテ此ノ如キ撰舉ニ於テハ必ナラ
ス全州適半ノ合議ヲ要セサルヲ得ス而メ大統
領ノ下大數ヲ獲シ者常ニ副統領ト為ル可ク若
シ二三ノ人其數ヲ同フシ優劣無キ時ハ上院票
ヲ投シテ之ヲ撰拔ス可シ

第一節四

撰士ヲ擇フノ時並ニ其投票ノ日ヲ定ルハ都

テ合衆國中同一ナル可シ

第一節五

合衆國ニ生レタル人民或ハ此憲法ヲ立ル時
ニ於テ合衆國ノ人民タラサル者ハ大統領ノ位
ニ選フ可カラス又齡未タ三十五ニ至ラス且十
四年間合衆國內ニ住マサル者ハ其位ニ舉カル
ヲ得ス

第一節六

若シ大統領職ヲ解カレ或ハ去去或ハ辭職或ハ
其職ヲ奉スル能ハサル時ハ副統領之ニ代ル可シ

而ノ正副二員免官或去辭職或ハ其職ヲ奉スル
不能ハサルハ其職ヲ奉スル能ハサルヲ終リ
或ハ大統領撰ハル、追議院ニテ仮リニ其統領
ヲ撰フ可シ

第一節七

大統領奉職ノ間ハ其勞ニ報酬ヲ受ケ其俸ハ前
後増減アル可カラス又合衆國或ハ州内ヨリ他
ノ俸禄ヲ受ク可カラス

第一節八

大統領其職務ヲ行フ時必ナラス左ノ誓ヲ為ス

可シ

第一節九

予敬シテ至誠ヲ以テ合衆國大統領ノ職務ヲ行
ヒカヲ盡シテ其憲法ヲ保全存守センコトヲ誓フ

第二節一

大統領合衆國海軍及ヒ國用ノ為メ徵發スル所
ノ各州市兵ノ都督タル可シ而シテ行政官中各
省長官ヲシテ其庶務ノ意見ヲ記シ之ヲ出サシ
メ又「インピーチメント」ヲ除クノ外合衆國ニ犯ス諸
罪ヲ宥ルス權アリ

第二節二

議員三分ノ二之ヲ可ルセハ上院ノ助ケヲ以テ和ヲ講シ又使節及ヒ他ノ公使領事官法官ヲ命シ其他茲ニ掲ケサル合衆國ノ庶官奉命ハ都テ法ニヨリ定ム可シト雖氏議院之ヲ然リトセハ司法下官或ハ各省長官ヲ命スルヲ專ラ大統領ニ歸ス可シ

第二節三

上院休會中欠官アル時ハ更ニ人ヲ命シ其員ヲ充タシ之ヲシテ次會ノ席ニ列ナラシム可シ

第三節一

大統領常ニ合衆國ノ景況ヲ議院ニ告ケ隨テ之ニ應スルニ適宜必要ト思慮スル事ヲ議論セシム可シ而シテ非常ノ時ハ二院或ハ一院ヲ會シ且延會ノ期限ニツキ兩院ノ議合ハサレハ大統領ノ意ニ隨テ之ヲ延シ又外國使節其他公使ヲ受ケ能ク心ヲ用テ其法度ヲ行ハシメ合衆國庶有司ヲ任ス可シ

第四節一

大統領及ヒ副統領其他合衆國諸官及逆ヲ企テ

合衆國憲法
賄賂ヲ納ル、等ノ重罪アル時ハ「インヒトチン」トシテ
ヲ受ケ其罪愈明白ナル時ハ之ヲ其位ヨリ黜ク
可シ

第三條

第一節

合衆國執法ノ權ハ之ヲ一大法局並ニ議員隨時
定ル小法局ニ附シ而シテ大小法局判官行正シ
ケレハ永ク其職ヲ保テ其勞ニ報酬ヲ受ケ在官
中其俸増減アル可カラス

第二節一

執法ノ權ハ此憲法合衆國法度及ヒ外國定約上
ヨリ起ル法度律例ヨリ使節及ヒ他ノ公使領事
官等ニ係ル「一」ニ及ヒ海軍局并ニ海上律及ヒ外
國ト合衆國若クハ二三州ノ間爭端ヲ開キ或ハ
一州ト他州ノ人民又ハ他州ノ人民ヨリ獲ル所
ノ土地ヲ相爭フ同州ノ人民或ハ一州又ハ其人
民ノ間又外國或ハ其人民ノ間ニ起ル訴訟ヲ裁
斷スル事ニ及フ可シ

第二節二

使節他ノ公使及ヒ領事官ニ係リ或ハ州間ノ事

論等ニ於テハ都テ大法局其裁判ヲ掌リ前ニ記
載シタル他ノ争端ニ付テ其實ヲ舉ケ法ヲ斷ス
ルニ於テハ議院ニテ設立スル法則ノ外悉ク小
法局ニテ之ヲ司リ大法局ハ唯其決ヲ取ル而已

第二節三

インピーショントテ除キ他ノ諸罪糾問ハ都テ
リ用ヒ糾問ノ時撰舉ニ違ヒ私ヲ捨テ公ヲ
ハシ証ヲ又罪ヲ犯ス所ノ地ニ於テ其人ヲ詰問
ス可シト雖モ若シ其罪州内ニ起ラサレハ議院
ニテ定ムル處ニ於テ糾問ス可シ

第三節一

合衆國ノ逆罪ハ其政府ニ背キ戰ヲ興シ或ハ其
敵ニ與ン又ハ之ヲ助ケ或ハ衣食住ヲ給シテ之
ヲ救フ等ナリ給シテ何人ト雖モ二人以上其罪
跡ヲ確証シ或ハ裁判所ニ於テ自ラ其罪ヲ白状
スルニ非サレハ敢テ逆罪ニ斷ス可カラス

第三節二

議院逆罪ヲ刑スルヲ議スルノ權アリト雖モ死
後其人ヲ戮殺シ或ハ其財ヲ沒收ス可カラス

第四條

第一節一

各州互ニ其布令記録及ヒ裁判ノ所置等全ク之ヲ信用ス可ク又議院宜ク一般ノ定則ヲ立テ其記録及ヒ裁判ノ所置等ヲ確証スヘシ

第二節一

各州ノ人民均シク其特權特利ヲ受ク可シ

第二節二

何州ニテモ逆罪及死罪或ハ他ノ罪名ニ違ヒ他州ニ遁シ去リ其州行政官ヨリ之ヲ乞ハバ即予之ヲ其遁ル、所ノ州ヨリ其罪ヲ掌ル所ノ州ニ渡

ス可シ

第二節三

何州ニテモ其法度ニ從ヒ用ヲ為シ役ヲ勤ル人若シ他州ニ遁ルハ其州ノ法度ニ由リ其用或ハ役ヨリ免ル可カラス必ナラス之ヲ其用役歸スル所ノ人ニ渡ス可シ

第三節一

新州此合州部中ニ入ルヲ許スト雖モ議院并ニ其州ノ議政官之ヲ准スニ非サレハ部中新ニ州ヲ建テ又一二ノ州相合シテ州ヲ成ス可カラス

第三節二

議院合衆國所屬ノ土地或ハ他ノ財産ヲ賣リ又
其事ニ付緊要ナル法則ヲ立ツ可シ而シテ此憲法
中何ノ條タリテ漫ニ之ヲ牽強シ合衆國或ハ其
州所有ノ權ヲ妨害ス可カラズ

第四節一

合衆部中各州ニ共和政治ヲ保タシメ而シテ各
州ノ外寇ヲ防キ其州議政官ヨリ乞ハシ其内乱
ヲ鎮ム可シ但シ其官會セサル時ハ其州ノ行政
官ヨリ之ヲ乞フモ亦可ナリ

第五條

第一節一

兩院三分ノ二望ムモノアレハ常ニ此憲法ヲ補
正スルノ議ヲ發ス可シ又各州議政官三分ノ二
之ヲ望マハ其補正ヲ計ル為メ集會ヲ起ス可シ
而シテ議院ヨリ發スル所ノ議定ノ法ニ從ヒ各州
議政官ノ議四分ノ三或ハ集會ノ時四分ノ三協
合セハ此憲法ト共ニ立テ以テ合衆國ノ法ト為
ス可シ

但シ一千八百八十年迄ハ第一條九節ノ第一及ヒ

第四條ニ關係スル下ヲ改革ス可カラス又
其州之ヲ肯セサレハ何レノ州タリ且上院
ニ等シク議員ヲ出スノ權ヲ奪フベカラス

第六條

第一節

此憲法ヲ立ル前「コンフェデレーション」各州聯合ノ
時結フ所ノ約定及ヒ國債等ハ都テ此後ト雖且
保存ス可シ

第二節

此憲法及ヒ此憲法ヲ追テ定ム可キ合衆國ノ法

又合衆國ノ命ヲ以テ既已ニ結フ所ノ條約或
ハ將來結フ可キ條約等都テ國中ノ大法タル可
シ而シテ其州ノ法度憲法之ニ乖戾スルヲ有モ
各州ノ裁判役之ヲ遵守セサルヲ得ス

第三節

上ニ記載スル上下兩院ノ議員及ヒ各州議政官
又合衆國及ヒ各州ノ行政官并ニ執法官皆誓テ
此憲法ヲ維持セスンハアル可カラス然レ且合
衆國中何等ノ官職ヲ奉スル且宗法ノ誓ヲ用ユ
ルニ及ハス

第七條

第一節

此會議ヲ定ムルニ九州ノ議合サレハ此憲法ヲ立テ、合衆國ノ大法ト為ス可カラス

合衆國憲法 終

北亞米利加合衆國憲法補正

第一條

議院擅ニ法度ヲ立テ宗旨ヲ定メ或ハ宗旨自由ヲ禁シ論談或ハ發見ノ自由ヲ刪リ又人民靜ニ事ヲ會議シ及ヒ愁苦ヲ免カレン為メ政府ニ哀訴スルノ權ヲ制ス可カラス

第二條

能ク調フタル市兵自主國安全ニ緊要ナルヲ以テ人民兵器ヲ貯ヘ或ハ之ヲ携ルノ權ヲ壞ル可カラス

憲法補正

第三條

平和ノ時ニ於テ屋主之ヲ背シスルニ非サレハ
兵卒猥リニ庶人ノ家ニ宿ス可カラス又戰爭ノ
時ト雖モ定法ニ背キ宿スルヲ得ス

第四條

人民ノ身体家屋書類貨財等故無フシテ穿鑿又
捕縛ス可カラズ又其事跡信スルニ足り人モ亦
誓ヲ為シ証ヲ立テ殊ニ穿鑿ス可キ處及ヒ捕縛
スヘキ人或ハ没収スヘキ物ヲ書スニ非サレハ
猥リニ其令状ヲ出ス可カラズ

第五條

死罪或ハ他ノ重罪ニツキ大「シユリ」ノ告状ナ
キ時ハ何人モ之ニ答ルニ及ハズ但シ海陸軍ハ此
例ニ非ス且市兵ト雖モ國家危急ノ時ニ當リ現
ニ兵役ニ服スル時ハ是ヨリ下ニ行海陸軍ノ
何人ト凡同罪ノ為ニ生命ヲ危兵ニ同シ又
屠ヲ毀ル可カラズ同罪ノ為ニ生命ヲ危フシ或ハ皮
ノ罪ヲ証スルヲ強又執法ノ序ニ由ラスシテ人ノ
生命自由財産ヲ奪フ可カラズ又相當ノ償ヒナ
クシテ庶人ノ所有ヲ公用ト為ス可カラズ

第六條

庶罪糾問ノ時其罪ヲ問ハル、人罪ヲ犯シタル
所ノ州郡ノ公平ナル「ジュリー」ニ依リ速ニ其罪
鑿ヲ受ク可シ尤モ其罪状ハ州郡ニテ法ニ因リ
豫メ確知セスンハアル可カラス且其責メラル
、所ノ罪状及ヒ其原因ヲ知リ己ノ為ニ害ア
ル証ヲ立ツル者ニ對決シ勉メテ己ノ為ニ利ア
ル証ヲ立ツル者ヲ求メ又己ヲ防ク為メニ「コン
サー」裁判ノ時罪人ニ教ヲノ助ケヲ受可シ

第七條

通法ノ訴訟ニ於テ互ニ相争ヒ其償ヒ二十元ニ

過キサル時ハ「ジュリー」ニ因テ穿鑿ヲ受クルノ
權ヲ存ス可シ而シテ其「ジュリー」ニ依リテ穿鑿セ
シトテ通法ノ定則ニ從テ之ヲ為スニアラサレ
ハ合衆國何等ノ裁判局ト雖モ再ヒ穿鑿ス可カ
ラス

第八條

適當ノ過料ヲ要シ又非常ノ罰金ヲ當テ或ハ過
刺不用ノ嚴刑ヲ行フ可カラス

第九條

此憲法中殊ニ二三ノ權力ヲ揭示スト雖モ之ヲ牽

強シ敢テ人民所有ノ他ノ權力ヲ肯ニ減ハ減ス
可カラス此憲法ニ依テ合衆國ニ委子又各州ニ禁
セサル權力ハ都テ之ヲ各州或ハ人民ニ存ス可
シ

第十條

漫ニ合衆國執法ノ權ヲ牽強シ他州ノ人民或ハ
外國ノ人民ニヨツテ法度憲法ニツキ發スル所
ノ訴詔ヲ斷スルトニ擴充ス可カラス

第十一條

撰士各州ニ會同票ヲ投シテ大統領及ヒ副統領

ヲ撰舉シ其内一人ハ少クモ已ト同州ノ者ナル
可カラス而メ大統領へ撰マレタル人ノ名ヲ一
ノ票ニ書ルシ又副統領ニ撰マレタル人ノ名ヲ
他ノ票ニ書ルシ別ニ大統領ニ撰ハレタル諸人
ノ名及ヒ副統領ニ撰ハレタル諸人ノ名ト共ニ
二官ヲ撰フ「ヴラート」ノ數ヲ記シ調印立証シ上
院ノ議長ニ當テ之ヲ合衆國政府ニ送ル可シ而
ル後チ上下議員ノ前ニ於テ上院ノ議長總テ其
封ヲ開キ「ヴラート」ヲ數ヘ果シテ奉命撰士全
數ノ大數ナラハ大統領ニ撰ハレ其數最多キモ

ノ其位ニ登ル可シ若シ一人モ其大數ヲ獲ル者
無キハ則チ其「ヴラード」ヲ受ケシ記録中其數
最多キ者三人已下ノ中ニテ下院直ニ票ヲ投シ
テ之ヲ撰ブ可シ然レトモ大統領ヲ撰ブニハ諸州
各一言ヲ出シテ各州「ヴラード」ヲ採リ其數ハ三
分二ノ州ノ議員ヲ以テ足レリトシ又全州ノ大
數其撰舉ニ必要ナリ而シテ之ヲ撰フノ權下院
ノ手ニ落ル毎ニ若シ翌年三月四日前ニ大統領
ヲ撰ハサル時ハ大統領去或ハ憲法上他ノ故
ヲ以テ奉職スル能ハサル時ノ如ク副統領其職

ヲ務ム可シ

第十二條

奉命ノ選士全數過半ノ數ニシテ副統領ニ撰ハ
ル、「ヴラード」ノ數最多キモノ其職トナリ而
シテ若シ其大數ヲ得ルモノ無キハ則チ上院
記録中其數最多キ者二名ヨリ副統領ヲ撰フ
可シ而シテ其數ハ上院議員三分ノ二ヲ以テ足
レリトシ全數ノ過半其撰舉ニ必用ナリ

第十三條

此憲法上ニテ大統領ノ位ニ即クテ得サル人ハ

敢テ合衆國ノ副統領ニ選フ可カラス

合衆國憲法補正 終

明治三十三年五月廿七日

求知堂藏版

賣弘珩

東京芝神明前

岡田屋嘉七